

コスト減へ合理化急ぐ

下期生産会議で計画提示

十月十七日、六十二年下期の項などについて回答をつけ、今後生産会議が開かれ、会社側は生産の合理化の方向性などを追及し、計画、人員計画を提示、組合側の計画に対する質疑、さらに賃金問題、第八次石炭政策が進行される中

62年上期出炭実績 (単位: トン・%)						62年下期出炭計画 (単位: トン・%)					
	計画	実績	遂行率	能率			計画	能率	払数	掘進先数	
第1鉱	四山	488,000	521,472	106.9	122.8	第1鉱	四山	320,000	108.0	1	3
	三川	672,000	574,021	85.4	92.1		三川	700,000	114.4	2	7
第2鉱	有明	675,000	691,470	102.4	125.3	第2鉱	有明	730,000	132.4	2	7
計	1,835,000	1,786,963	94.4	104.4		計	1,750,000	110.4	5	17	

62年下期人員計画					(単位: 人)
		上期末	下期末	増 減	備 考
第1 鉱	四山	584	526	- 58	病院は外数で、62年上 期末108人が2人増の 110人となる
	三川	1,068	1,050	- 18	
第2 鉱	有明	949	939	- 10	
	本所	184	179	- 5	
計		2,785	2,694	- 91	

62年下期請負計画					(単位: 人)
		上期末	下期末	採 鉱	施 設
第1 鉱	四山	85	50	20	30
	三川	270	265	220	45
第2 鉱	有明	275	245	200	45
計		630	560	440	120

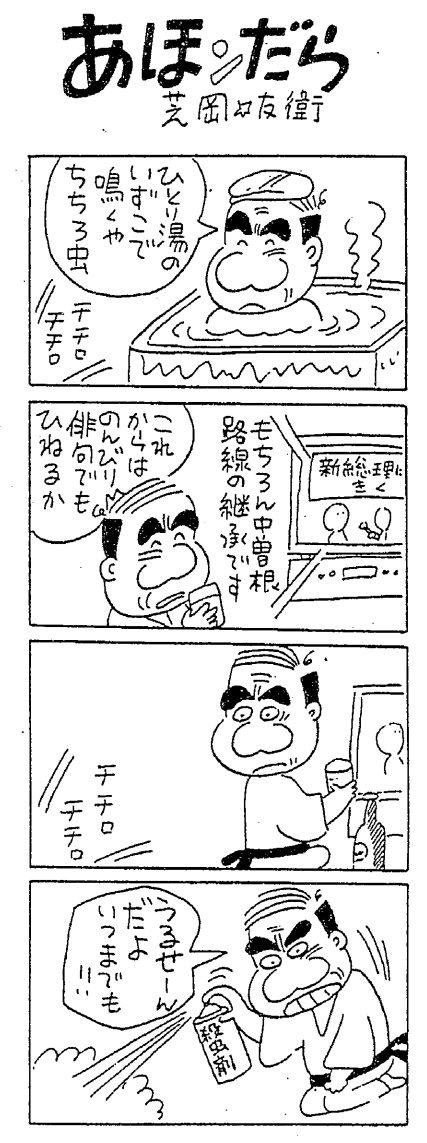
ごくろうさまでした
定期総会で定年退職者表彰を受けた皆さんの紹介。
(1986年7月28日から1987年10月25日まで)

- | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|----------|
| 宮崎 勝さん | 藤田 幸次郎さん | 太田 和雄さん | 牧園 幸さん | 小淵 六郎さん |
| 梅崎 孝平さん | 下田 政治さん | 早田 正次さん | 奥田 信さん | 山下 道雄さん |
| 浜水 司さん | 田中 勝義さん | 田中 孝明さん | 上 義信さん | 平松 夫さん |
| 北島 治さん | 大石 建城さん | 松田 恭太郎さん | 松本 小夜子さん | 酒井 昭一さん |
| 壇 和磨さん | 松田 敬之助さん | 柳本 覚さん | 村松 進さん | 杉村 学さん |
| 羽江 雄さん | 伊牟田 正隆さん | 西田 正一さん | 金子 賢一さん | 中島 水さん |
| 上原 隆さん | 寺本 六男さん | 宮原 仁さん | 中原 忠司さん | 林 清人さん |
| 合瀬 成猛さん | 中村 春吉さん | 坂田 義憲さん | 桃島 博明さん | 久保田 吾一さん |
| 古閑 良男さん | 松尾 建次さん | 田中正人さん | 今岡 進さん | 合瀬 幸江さん |
| 藤田 貴生さん | 佐賀 武司さん | 八江 末豊さん | 福松 隆晴さん | |
| 平野 友幸さん | | | | |



閉山に追い込まれた真谷地炭鉱
この合理化計画は、第八次石炭政策が目指した五年間の「なだらかな生産縮小」のピッチをさらに早めるものとなっています。
八次策は六十六年度で一千万トンに修正されました。

ナダレ縮小狙う
— 今こそ政策の見直しを —
石炭鉱審
この計画は、一、二七〇万トン
千二百七十万トン(対前年度比二百五十万トン減)とし、能率は百トンとする。②財政管理会社の買上げ限度量を三百六十万トンとす。③閉山規模は百三十三万トン(砂川・真谷地)とする。④合理化に伴う離職者数(六十二年度黒手帳発給対象者数)を北海道で四千三百人、本州・九州で千人、全国合計で五千四百人にする。などとなっています。
見直し、補完を
この計画について、同部会に労働側委員として出席した藤原炭労働委員長は、「急速な生産、人員減は、まさしくナダレ縮小というべきであり、なだらかな縮小という八次策は成立しない。政策の見直し、補完を講じなければならぬ」と主張しましたが、最終的には原案通り確認されました。



この総会は、一年間のきびしいたたかいを終えて開かれた。第八次石炭政策が決定されて以来、砂川炭鉱に続いて真谷地炭鉱が閉山に追い込まれ、三池炭鉱においても縮小合理化が確実に進行している。
この政策は、国内炭の維持・存続についての根本的な対応策を示さないまま、海外炭にすべてを依存し、わが国の石炭産業の縮小と将来の総撤退を図るものである。
戦後最悪といわれた中曽根内閣は確実に退陣するが、国民不在の総裁選を経て後継者が決定した。その内閣は、「戦後政治の総決算」路線を踏襲する金権・腐敗、財界に奉仕する政治を進め、国民の生活を一層圧迫することになる。
一九八七年十月二十五日 三池炭鉱労働組合定期総会
一九八七年度 定期総会
スローガン
一、長期抵抗統一路線を基調に、職場と地域闘争を強め、三池炭鉱全労働者の統一闘争の前進を勝ちとろう
二、石炭つぶしの政策に反対し、閉山・縮小合理化を許さず命と生活を守り、労働条件向上をめざしてたたかおう
三、CO2削減協定の充実・改善で、遺族と患者を守り九・二八裁判に勝利し
四、政治の反動、労働戦線の右翼の再編に反対し、たたかう労働運動の再生と発展のために頑張ろう
五、自民党・財界の国民を犠牲にする行政改革軍拡路線と対決し、春闘および諸闘争をたたかい抜こう